

【事業目的と目指す姿】

広域観光組織等において、稼げる観光地域づくりに必要となるマーケティングやマネジメント等の手法を学ぶとともに、観光客の周遊動向データ等を活用し市町村をまたがる観光施策の企画・実践（実証事業）を重ねることで、広域観光組織等が観光振興計画に基づいて取り組む観光施策の実効性の向上を図る。

目指す姿

県全体での観光客の滞在日数が増加し、観光消費額が拡大する

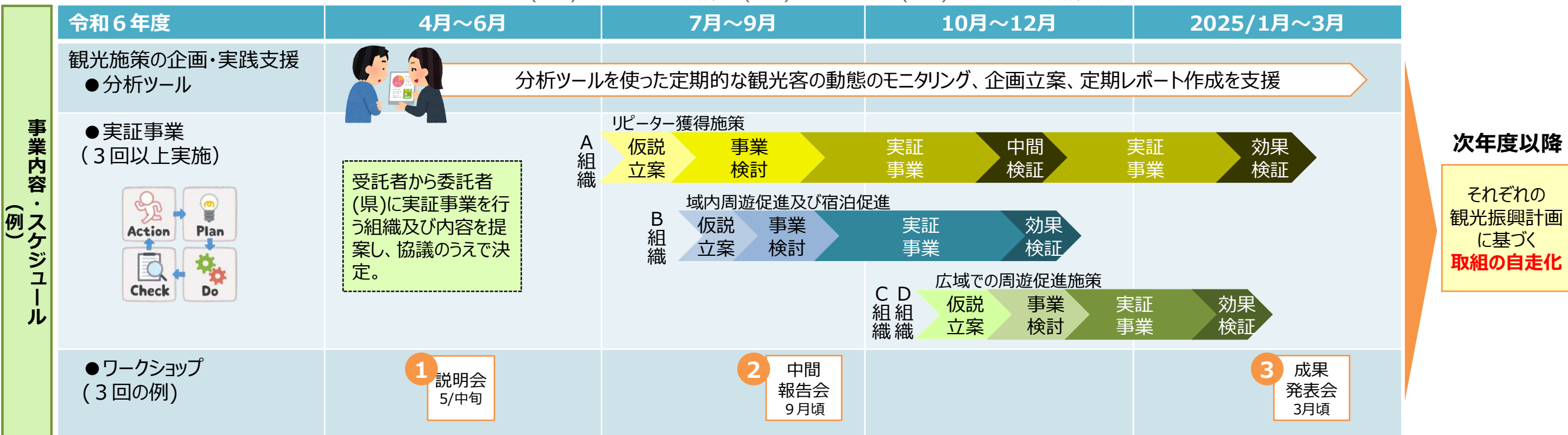
【現状と課題】

- ・広域観光組織では、エリア内の関係者（観光協会や事業者等）に観光施策の取組の方向性をデータや根拠に基づいて説明し、合意形成を得たうえで取組を進める必要がある。
- ・広域観光組織では、主要観光施設の入込調査や満足度調査等、経年調査をおこなっていることから蓄積したデータがある。また、これまで利用してきた分析ツールによりデータを分析できる状況である。一方で、これまで、地域コーディネーターの支援のもと右に掲げるテーマで実証事業を行ってきたが、取組の自走化に至っていない面もある。
- ・県内観光をさらに底上げするためには、実効性の高い取組を継続して行う必要がある。

【これまでの実証事業のテーマ】

- ・宿泊客へのグルメ情報の提供による域内周遊の促進
- ・イベント等のターゲット層・ターゲットエリアに向けた情報発信
- ・ターゲットを絞った新たなコンテンツ開発
- ・SNSでのキャンペーンのPRによる誘客及び周遊促進
- ・クーポン発行による閑散期の宿泊・体験の利用増加
- ・エリア内のグルメ・体験・買い物情報の発信による消費拡大
- ・域内の飲食店を絡めた宿泊プラン造成による消費拡大 等

【事業内容・スケジュール】 【対象】 広域観光組織 ((一社)高知県東部観光協議会、(一社)物部川DMO協議会、(一社)土佐れいほく観光協議会、(一社)仁淀ブルー観光協議会、(一社)奥四万十高知、(一社)幡多広域観光協議会)、高知市



次年度以降
それぞれの観光振興計画に基づく
取組の自走化

ワークショップ(例)

説明会

- ・使用する分析ツールの説明
- ・令和6年度の流れの説明

中間報告会

- ・データの活用事例を適宜メール等で共有
- ・分析ツールの利用状況の共有
- ・実証事業の共有

成果発表会

- ・データの活用事例を適宜メール等で共有
- ・取組結果、今後の展望を発表